

## 転入あいさつ

主任研究員 柳川 建

県庁水産技術指導担当から技術支援部へ転入してきました。

研究機関での勤務は、平成3年度から5年度、そして平成10年度から12年度の2回計6年間、庄原市にあった水産試験場淡水魚支場で研究員として内水面増養殖に関する研究と技術指導に携わった経験があり、今回で3回目になります。

淡水魚支場は木造平屋建てのとても古い建物でしたが、目の前を西城川が流れており、季節折々の河川の変化を肌で感じる事ができる最高の立地だったと記憶しています。

平成12年度に研究機関の統合が行われ、淡水魚支場は水産海洋技術センターの前身である水産試験場に移転統合されて水産試験場内水面部となり、その年に内水面専門の普及員として県庁へ赴任しました。県庁で内水面普及指導業務にあたっていた5年間は、内水面関係者から「内水面の試験研究機関がなくなった。試験場が疎遠になった。」と小言を聞かされることが多くなったことから、水産試験場の存在感が保たれるよう、事あるごとに内水面部へ声をかけて現場へ同行していただいていたことをよく覚えています。その後6年ほど沿岸部の漁業振興に携わり、このたび実に12年ぶりに研究機関へ戻りました。

こちらでは、主に研究成果の移転や広報、錦鯉輸出に係る証明事務などを担当します。

50歳を目前にして10年以上のブランクがある研究機関への異動は戸惑いを感じていますが、関係機関と連携をとりながら成果移転等を進めて行きたいと思っています。

みなさん、どうぞよろしくをお願いします。

## 職員の異動 (4月1日付)

本年度は、4名の方々が転出され、4名の方が赴任されました。

### 転出

センター長 加藤 友久 退職  
次 長 安江 浩 退職  
総括研究員 池田 好伸 農業技術センター  
研究員 吉岡 孝治 農林水産局水産課

### 転入

センター長 赤 繁 悟 食品工業技術センターから  
主任研究員 柳川 建 農林水産局水産課から  
研究員 岩本 有司 採用  
研究員 中森 三智 採用

## トピックス

4月に鹿川地区の小型底引網漁船がサツキマスを漁獲しました。



サツキマス (*Oncorhynchus masou ishikawae*) はサケ目サケ科の魚です。

サツキマスは秋に川へ産み落とされた卵が2ヶ月ほどで孵化し、約一年間川で過ごした後に海へ降ります。そして数ヶ月間海でイワシやイカナゴなどの小魚を食べて最大で体長50cm、体重2.5kg前後にまで成長します。その後、初夏から梅雨明け頃にかけて産まれた河川へ遡上し、秋に産卵して一生を終えます。

サツキマスのうち一部の魚は海へ降りず河川へ残留します。これはアマゴと呼ばれ、溪流釣りの対象として人気があり、種苗放流も行われています。(以前はサツキマスを「アマゴの降海型」と呼んでいましたが、近頃はアマゴを「サツキマスの河川残留型」と呼ぶことが多いようです。)

サツキマスはサクラマスとよく似ていますが、サクラマスは河川で一年半過ごして春以降に海へ降り、約一年海で過ごした後に川へ戻ってきます。またサクラマスの河川残留型であるヤマメにはアマゴのような朱点がありません。

広島湾周辺海域で漁獲されるサツキマスは、太田川の上流で自然繁殖したものや放流されたアマゴの一部が海へ降りてサツキマスに成長したもので、主に小型定置網や刺し網、まれに小型底引網などで漁獲されます。

水産海洋技術センターの前身である広島県水産試験場では平成元年から3年間、サツキマスに関する放流追跡調査を実施していました。

水産海洋技術センターのホームページからその研究報告を読むことができます。

太田川における降海型アマゴの放流と追跡  
水産試験場研究報告 No.19,41-49(1996)

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/32/kenhou01.html>